

令和 7 年 3 月 4 日

南箕輪村議会議長 様

提出者名 笹沼 美保

議員研修・議員視察結果報告書

研修名または視察テーマ	福祉教育常任委員会行政視察
研修・視察実施場所	東京都町田市バイオエネルギーセンター、 NPO法人一粒舎、社会福祉法人土穂会
研修・視察の期間	R7年 2月 5日～ R7年 2月 7日
研修・視察の成果等	<町田市バイオエネルギーセンター> 2022年1月に町田市は環境先進都市「ゼロカーボンシティまちだ」を宣言し、脱炭素社会の実現に向け、町田市バイオエネルギーセンターにおける廃棄物バイオマス発電や、発電電力の地産地消、将来を担う子どもたちに対する環境配慮意識の醸成に資する教育機会の創出に取り組んでいる。施設を見学したところ、子どもでも楽しみながら学べる工夫が随所になされており、主体的にごみ減量に取り組む意識を育むことができる施設となっていた。また、ごみの埋め立てはゼロであると聞き、そのようなことが可能な施設があることに驚いた。ただ、分別されなかったリチウムイオン電池が原因の火災が3件発生しており、修理のためバイオガス化施設は現在稼働していないとのことであった。先進的な施設はトラブルが起ると再稼働に時間を要すること、また、そのような有事の際の対応も念頭にトータルで計画等を行わなければならないと感じた。町田市の基本理念「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」を実施するためには、やはり一人ひとりがごみに対する認識を新たにし、生活を見直す必要があると感じた。近年の地球温暖化を思うと、未来ある子どもたちのためにも、持続可能で環境負荷を減らす取り組みは進めていかなく

てはならないと、思いを強くした研修視察であった。

< N P O 法人 一粒舎 >

農福連携に先進的に取り組む千葉県のNP0法人一粒舎と社会福祉法人土穂会を視察した。

一粒舎は荒廃農地を活用したブルーベリー栽培により、障がい者と高齢者の雇用機会を創出している就労継続支援B型事業所で、6次産業化を推進することにより、利用者の高い工賃を実現していた。代表の飯田さんをはじめスタッフの熱意と思いが強く、利用者の自立と生活安定のためになることを最優先に、さまざまな取り組みを行っていた。年間通して利益を上げ工賃に反映させるために、ブルーベリーの葉を茶葉にしたり、ジャムに加工するなど6次産業化。工賃は驚きの平均52,500円。スタッフは70才以上がほとんどで、福利厚生にあまりお金がかからないことも要因ではあるが、商品の売り上げ目標を高く掲げ、工賃アップに対する意識がとにかく高かった。また、利用者が楽しみながら、やりがいをもって働ける環境づくりにも力を入れていて、このような事業所なら利用者も働き続けるモチベーションが保てるだろうと感心しきりであった。

< 社会福祉法人土穂会 >

知的障がい者が多い障がい者支援施設で、地元の牧場が行っていた菜花栽培を事業継承し、地域住民と連携しながら利用者の自立支援を行っている。ここでも事業を持続可能とするために、菜花栽培だけでなく元々行っていたゴマ油製造に加え、ナシの剪定枝拾いやライ麦ストロー作り、ホエイを活用したドレッシング作りなど、年間を通して工賃を生み出す取り組みを行っていた。

2つの農福連携事業所を視察して強く感じたことは、関わる人・支援する人の熱意がこんなにも違うのかということ。農福連携を考える時に、利用者の立場で支援を考える気持ちが持続可能な取り組みにつながるのだと再認識した視察であった。